

---

# 詞集

村雨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

詞集

### 【Nコード】

N4650V

### 【作者名】

村雨

### 【あらすじ】

僕が作る曲の歌詞を載せていこうと思います。

曲より先に出来ているモノが大半になるので、曲そのものを聴くのはだいぶ後になる可能性もあります。とりあえずは単純に詞（詩）の詰め合わせとってください。

ブログはコチラ←

<http://ameblo.jp/distorted-wonderland/>

拙い作品ですが、読んでくださる方に少しでもインプットが増えれば幸いです。

※当初は友人・架空パンクが書いたものも投稿する予定でしたが、別の作品としてupしました。僕のユーザーページから「架空パンク・リリック」に飛ばば読めます。

## スタンダードアロン（前書き）

作詞..村雨

作曲..村雨

※曲は現在、鋭意製作中

## スタンドアロン

聞き飽きた言葉は決まりなく広がって  
際限ない選択肢を投げかける

鏡の中で言う「俺は僕じゃない」  
そうです  
なら僕は誰？そこにいるの？

独りでいいんだ  
何も困らない  
だってほら息ができる  
血を流せる

誰かが嫌いな僕が嫌い  
紡がないように手を止める

君の僕は言う「君は僕じゃない」  
そうです  
なら君は誰？ここにいるの？

剥がして痛いなら  
そのまま触れなくていい  
独りでなんとかするから

見上げた空  
重なる多角形

光量が潰す翼は孤独を知り  
手を放せば鳥は地を這う

君は知らないだろう、胸を貫く光  
僕は知らないから、君の見えた光

手を放して  
歩けなくなるから

飛べないのは背負った羽根が重いんじゃない  
羽ばたいて欲しいと願えば鳥は空を乞う

ほどこいた線の先（前書き）

作詞・・村雨

※作曲未定

## ほどこいた線の先

君の好きな簡単な絵を  
色を消して線に戻して

辿れば未来があるような気がして  
カメラを持って立ちすくんだ

短すぎる時間僕は夢を見た  
目を開いて現実にするつもりが  
どうやら遅すぎたらしい

失いたくないよ 痛みさえ  
開いた傷口から暖かい血が流れるなら  
はじまりの笑顔だけ張り付いて  
何も手放さないまま全て失っていく

映画館で単純な絵を  
色は無くて線のままで  
そのまま画面に移しとったら  
電話の向こうで声震えてた

少し長い時間僕は躊躇った  
それだけでも伝えたいことだけは  
どうやら遅すぎたらしい

たとえば時間を戻せたとして



望む通りになるとして  
変えたいことが多すぎて  
変えてるうちに今日になる

それなら

失いたくないよ 痛みさえ  
開いた傷口から暖かい血が流れるなら  
はじまりの笑顔だけ張り付いて  
何も手放さないまま全て失っていく

僕だけじゃないよな  
君もきつと

視界から消える  
君の名を呼ぶ  
僕を消す

そう上手くは行かないよな  
そうだよな

ルーツ（前書き）

作詞・作曲…村雨

※近日公開

## ルーツ

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう  
鳴り止んだら此処にはいないよ  
先に行くよ

望んだ世界はない 此処にはただ  
紛うことない今さ それだけ

見えない目の前は辛いのかな  
でも戦い方は学んだろう

もう吸わない空気 埃ごと飲み干せ

出来るだけ高く手を掲げましょう  
出来るだけ強く腕を振りましょう

放り投げた自分に触れてくれた  
それで満たされた 嘘じゃないよ

オノレを刻むかけがえのないストーリー

唄れるほど強く意のままを叫べ  
痛いほど 心 空に解き放て

要らないモノばかり集めて  
心に針を刺すだけの日々も  
僕を成す愛すべき感謝の傷

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう  
鳴り止んだら此処にはいないよ  
先に行くよ

意味ないことも要らない心も  
際限なくぶつける時間があったなら  
それでいいさ きつと  
どうにかやっていける

いつかこの場所を訪ねて  
再び時間を戻して歩くなら  
僕らの誇るべきルートになる

白（前書き）

作詞・作曲…村雨

※作曲中

## 白

不定形 白のキャンバス  
それに白い絵の具を塗る

不変性 明日の日程  
否定理由探して乞う

僕を切り身をよじる  
不恰好でも進むしかない  
全てを知らないために  
ただ一つでいい

そうやって生きてきた 笑えよ  
不器用なんて今更  
いつか見た未来  
ただそれを塞ぐ白

無段階 空の連続  
人は四角に切り取る

君を切り胸穿つ  
不恰好でも笑うしかない  
全てを知らないために  
ただひとつでいい

そうやって生きてきた 笑えよ  
目を閉じながら空見て  
強く差す光  
ただそれで満たす白

焦がす痛みを誇りに変える  
その先の虹 踏みつける一歩

そうやって生きてきた 笑えよ  
心臓共に鳴らして  
いつか見た未来  
ただそれを描く白

## 白（後書き）

どうも。

弾き語りしたくてつくってみました。  
そのうちブログアップしたいです。



**クロックワイズ（前書き）**

作詞・作曲…村雨

※作曲中

## クロックワイズ

有限の明日が過ぎていつて  
無限の昨日を想う  
下らないゴミ溜め漁ったら  
光る今日の糧はありますか？

永久の愛を歌ったって  
刹那の機微に失せる  
残らない声だけ叫んだら  
歪む心の時計は回る

さらされた体温  
失われた未来  
閉まるドアの向こう  
君の言葉を刻む

手を繋いで もう一度  
明日を失ってもいいように  
触れた振動 消えない残像  
噛み合う今この時 本当が鳴る

解けていく心臓  
砕け散った過去  
閉まるドアの向こう  
僕の命を刻む

手を繋いで もう一度  
明日を失ってもいいように  
触れた振動 消えない残像  
噛み合う今この時 本当が鳴る

本当を鳴らす

## クロックワイズ（後書き）

バンドっぽい曲を作りたかっただけで書きました。  
だからだいたい単純になってしまった；

## 証明の弾丸（前書き）

先に断っておきますと、詞じゃなくて詩のつもりです。

## 証明の弾丸

君の手には拳銃が  
誰かを撃ち抜く弾丸が  
引き金を引くその瞬間が  
君の存在価値なんだ

伝えぬ想いに意味はなし  
だから僕はゴミだらけ  
増えてくゴミは溢れ出して  
誰かが拾えば伝うかな

君の手には拳銃が  
誰かを撃ち抜く弾丸が  
撃たないならば死ぬだけなんだ  
君の存在価値は無い

まだまだそんなもんじゃないだろ  
まだそれじゃ代わりはいるだろ  
まだまだそんなもんじゃないだろ  
まだ君じゃなきゃ駄目じゃないぜ

価値 理由 それ証明  
鳴らせよ心臓 零距离連動  
鬱 未練 これ証明  
示せよ傷痕 爆裂反応

まだまだこんなもんじゃないだろ  
まだそれじゃ真似事なんだろ  
まだまだこんなもんじゃないだろ  
もう君じゃなきゃ駄目なんだよ

僕じゃなきゃ駄目になれ

## 証明の弾丸（後書き）

前書きにもある通り、詞じゃなくて詩です。

これは、「詞集」についた初の感想に「詩も読んでみたい」とあったので、書いてみたものです。

感想貰うと滅茶苦茶嬉しい。

みなさんください（笑）

やっぱり、どうしても「詞」っぽさが抜けませんね（笑）  
まだまだだなあ。



**d a w n**（前書き）

作曲…j o k e r

※同名のインスト曲に向けての詩

## dawn

遠く陽炎を眺めて

ふと振り返ってみる

何か変わっているのだろうか  
残したのは足跡だけなのか

さあ、陽は昇った

旅のはじまりには十分だろう

これ以上何を求める？

失うために歩くのだから

僕らは鳴らす それだけでいい

今この時の感触を

また掴むためじゃない

まだ繋ぐためなんだ

遠く陽炎を眺めて

ふと振り返ってみる

全て変わってしまったんだよ  
残せるのは足跡ですらない

さあ、陽は昇った

旅のはじまりだよ ようやくだ  
これからも何か求めて

失いながら歩くのだろう

僕らは鳴らす それだけでいい

今この時の感触を

また掴むためじゃない

まだ繋ぐためなんだ

僕らが鳴らすんだ

見逃さないままで

## **d a w n (後書き)**

j o k e r っていうひねくれ者のギタリストと僕が中心となってC Dを作り、文化祭で配ったことがあります。

そのときに一曲目としてj o k e r が作ったインスト曲（楽器だけの曲）に対して書いてみました。

だから歌詞ってわけじゃありません。詩です。

対象があると詩は書きやすいですね（笑）

次は同C Dのラストを飾ったj o k e r のインスト曲に向けて書いたヤツをu p します。

**t w i l i g h t (前書き)**

作曲…j o k e r

※同名インスト曲に向けての詩

## twilight

沈みゆく太陽

残滓にすぎる月

僕らはその間を

何度も何度も歩いていこう

手を振ったら明日はあるかい？

手を放したら今日はあるかい？

手を触れなければ昨日はないよ

そういう隙間で生きているんだ

また昇ってまた沈む

ただそれだけだとしても

僕らはいつかまた繋ぐだろう

聞こえたかい？

もう疲れたろう

聞こえたかい？

今日は終わるよ

聞こえたかい？

もう鳴り止んだよ

聞こえたかい？

また音は届くよ

いつか見た陽炎だけの

それだけに僕らはいない

透きとおる空に光が灯るまで

去りゆく陽を見ていよう

ほら、  
灯つ  
たよ

## **t w i l i g h t (後書き)**

前回upしたものと同様、jokerの曲に向けて書いた詩です。  
単純にイメージを書いてみただけです。

そういえば、こういうふうに明確な対象がある詩ははじめてかもね。  
まあ結局、自分自身に帰着している感は否めないが(笑)



**空っぽの両手（前書き）**

作詞..村雨

※作曲未定

## 空っぽの両手

目を閉じれば空が見えて  
目を開ければ君がいたんだ  
いつか見たはずの世界  
いつか居たはずの世界

空は霞み君は消えた  
果たせなくなつて失せた光  
もうそれが何なのか  
そもそもあるのかさえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ  
君が望むものなんてどこにもない  
もうわかつているんだろう  
ここにいるべきじゃなかったんだ

目を閉じれば君が見えて  
目を開ければ夜が満たした  
そこに見えたこの世界  
黒と空のこの世界

何も言えず何も出来ず  
ただ居るだけの虚ろな価値  
切り捨ててる勇気さえ  
投げ出した勇気さえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ  
なるべき自分もなりたい自分も  
もう聞かないでください  
ここにいるべきじゃなかったんだ

開き直るのも怖い  
閉じ込めるのも怖い  
認めるのも怖い  
目を背けるのも怖い  
会うのも怖い  
一人も怖い  
生きるのも怖い  
死ぬのも怖い  
すべて怖いんだ  
もういやなんだよ

僕が救ったのは逃げ出したい自分  
君が救ったのは君自身だ  
君の居る砂の上から出て  
誰もを傷つけていくんだ

ねえ、もう僕には何もないよ  
そうして僕は損なわれていくんだ  
もう見下しているんだろう  
このままずっと失い続けるだけの人生  
首を絞めて自分でやめる

そんな僕が嫌いなんだ  
そんな僕は嫌いなんだ

もういいだろう  
ここにいてべきじゃなかったんだ

## 空っぽの両手（後書き）

まず言っておきますが、自殺したいわけではないのでご安心を（笑）

この詞は、架空パンクの真似じゃないですけど、原詩があります。

一年ちょっと前、部活で辛いことがあって、ちょうどそのときに書いたものです。

自分で勝手に失敗して、人を泣かせて、勝手に全部投げ出して、人を巻き込んで、勝手に自分を傷つけていました。

当時は本当に死にたいぐらい辛かったし、実際あとちょっとで死ぬぐらいまでやったこともあります。

今はあのときに比べて、進化か退化かはわからないけど色々と変わりました。

それでも、あの時の嫌な感じは今でも通じているものがあります。最近でも冗談じゃなく辛いことがあったし。

原詩に手を加えていくとき、まるで変えていくのを拒むみたいになりにくかったです。

だから割とまんま載せてます。

こんど原詩も載せてみようかな。

読み返してみると、吐き気がするほど辛さが鈍く蘇ってきます。書いたことを後悔するぐらいに。

でも、こんな僕もいるってことを、示しておきたかった。

他でもない、自分のために。

そんな利己的な詞ですが、いかがでしたか？

## ひかりのうた

名前さえ与えられない横顔に  
僕は触れようとした  
届かなかったみたいだ  
十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知って欲しい  
後悔しているんだ  
僕だって知ってしまう  
後悔しているんだ

僕も君も同じなんだ  
息を吸って心を吐いて  
違うのは そうどこか遠くで  
鳴り響くひかりのうた

自分さえ見つけられない風景を  
君は描こうとした  
見えなかったみたいだ  
十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知って欲しい  
どうしても忘れない  
僕だって知ってしまう  
どうしても忘れない

僕も君も同じなんだ

ここで生きて心を削って  
違うから もう両手放して  
耳塞ぐひかりのうた

僕が描いていくストーリー  
君の時間を奪い去った  
君がいないそのストーリー  
僕の時間を止めてしまった

僕も君も同じなんだ  
泣きじゃくって心を決めて  
違うのに この胸に届いた  
重なり合うひかりのうた



**君の音（前書き）**

作詞・・村雨

※作曲未定

## 君の音

羽根を持たない僕たちには  
この空は広すぎたのか  
飛べない鳥を待っているものは  
何も見えない夜の光

羽根を持つてゐる人たちには  
この空は狭すぎて  
もう飛んでいることもわからない  
全て溶けてく昼間の影

もう触れられないんだ  
気付いてしまったから  
未来を求めて伸ばした手の  
その先にある昔の傷口

それでも僕らは歌えるんだ  
通らない声 心の奥で  
待っているよ いつまでも  
伝う想いが鳴らすまで

だから今は手を振ろう

羽根の代わりに背負ったのは  
ちっぽけで重たいムスタング  
鳴らしていくよ 僕らの傷を

揺るぎないその日々を

それでも僕らは歌えるんだ  
通らない声 心の奥で  
待っているよ いつまでも  
伝う想いが鳴らすまで

さよならを言ったぶんだけ  
僕らは繋ぐ 君の音  
さあほら 何も無いけれど  
届くまでやめないでいるよ

## 君の音（後書き）

いずれ再びこの歌は登場します。

まだ先になると思いますが、この詞に絡めてとある作品を作ろうと思っていますので。

**セレブレーション(前書き)**

作詞・作曲…村雨

※制作中

## セレブレーション

暗い壁を睨みつけて光へ手を伸ばす  
待ち受ける日々のノイズを吸い込むために叫ぶ

いつかの日 感謝の気持ち忘れて  
失うことに怯えたけれど  
今ならば言えるだろう

「僕はここにいます」

Celebration your birthday  
今ここで会えたこと それだけでいい  
Celebration your birthday  
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

意味のない日々を過ごしている  
それでもいいんじゃない？  
ほんのちよつとでも笑えば蝋燭の火は灯る

今日この日 そうやって悶えながら  
必死に生きて傷つくけど  
僕たちは叫べるよ

「本当にありがとう」

Celebration your birthday  
今ここで会えたこと それだけでいい

Celebration your birthday  
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

借りたものを返すまでは  
ずっと歩み続けて

Celebration your birthday  
今ここで会えたこと それだけでいい  
Celebration your birthday  
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

ラララ……

## セレブレーション（後書き）

親友・真琴が誕生日だったんだけど、忙しかったから時間を置いて誕生会をやることに。

とゆるーく書いてみた。

まあ、これを聴かせるわけでもないから完全な自己満だな（笑）だから、見てくれた全ての人々へのバースデーソングだと思うてください。

そういえば、初めて英語使った詞です。



**三毛猫ステップ（前書き）**

作詞・・村雨

※作曲未定

## 三毛猫ステップ

携帯の電池が切れた  
どうでもいいか 気にならないな  
家のテーブルに財布忘れた  
これはちよつと拙いかな

家路

捨て猫

とりあえず撫でておいて  
早く家に帰ろう

捨てられない思いを  
吐き出せずただ垂らす  
三毛猫は心に住み着いたよ  
涙を飲ませてあげよう

学校から電話が来た  
どうでもいいか 適当でいいや  
段ボールに心忘れた  
取りに行こうか まだ早いかな

ステージ駆け抜ける輝きを思い出して  
遠くどこか行きたい

捨てられない風景を  
描けなくて画用紙破る  
三毛猫はそつと欠伸したよ

そろそろ外へ出かけよう

恣意そのまま空飛びたい

シーソー漕いでホップステップ

四月前の後悔も

三年前と変わらないや

捨てられない風景を

描けなくて画用紙破る

三毛猫はそつと欠伸するよ

そろそろ出かけよう

捨てられない思いを

吐き出せずただ垂らす

三毛猫は心に住み着いたよ

涙を飲ませてあげよう

### 三毛猫ステップ（後書き）

新境地。

シンプルにイメージを形にしました。  
初めてストーリー性を持たせてみた詞です。

**冬の陽（前書き）**

作詞・・村雨

※作曲未定

## 冬の陽

早朝の小学生

道行く猫を撫でている

張る空気をふわりと舞う太陽

通学と二番線

君が来るのを待ってみる

冷えるベンチをそっと融く太陽

ふわり舞う ふわり舞う

冬の陽の破片

透き通る空気の向こう

ぼんやり君が過ぎ去っていく

走ってみたら残り香

耳の痛みと陽の光

ふわり舞う ふわり舞う

冬の陽の破片

そっと消える そっと照らす

誰かの歩いた道

透き通る空気の向こう

ぼんやり君が過ぎ去っていく

走ってみたら残り香

耳の痛みと陽の光

視界の隅 窓の向こう  
ずっとどこかで待っていて  
心の音 鐘のように  
透明な光と交うよ

## 冬の陽（後書き）

寒い日の朝の風景が大好きです。



**君よ走れ（前書き）**

作詞・・村雨

※作曲未定

## 君よ走れ

「言葉だけじゃ足りない」

君は絵を描いた

白いキャンパスを染めていくポスターカラー

投げ捨てた筆と黒の絵の具

淡く朽ちていくなら破り去れよ

広すぎる空を眺めて笑おう

何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

靴紐が解けたの

絵の具が無くなったの

どうして止まってくれないの

僕が止めてやるんだ

そう君が望むなら

でもまだそんな時じゃない

君だって嫌なんだろう

広すぎる空を眺めて笑おう

何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

いつかまた動けなくなったら時計を止めてあげよう  
その先は知っているはずだ  
繰り返しだけじゃない

広すぎる空を眺めて笑おう  
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

君よ走れ

## 君よ走れ（後書き）

僕なりの応援歌です。

現代を生きる皆さんへ、不器用な僕が小さくエールを。

**十一月（前書き）**

作詞：村雨

※作曲未定

## 十一月

何か暖かいものが流れました

十一月の晴れのせい

目を閉じれば見えてきます

寒い日の朝のせい

真夜中に雨が降りました

十一月の空のせい

遠くで貨物が走ります

寒い日の音のせい

あの日伸ばした手の先に

あなたは待ってくれますか

今振り向いた雑踏に

あなたは歩いてくれますか

朝早く目が覚めました

十一月の鳥のせい

路上に黒く丸まります

寒い日の猫のせい

まだあの日が忘れられない

意気地無しを笑ってくれますか

まだ諦めようとしな

不器用を蹴飛ばしてくれますか

あの日伸ばした手の先に  
あなたは待ってくださいか  
今振り向いた雑踏に  
あなたは歩いてくれますか

笑ってください  
蹴飛ばしてください  
許さないでもいいから  
泣かないでもいいから

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4650v/>

---

詞集

2011年11月16日09時52分発行